

宝の海から

白浜で出会った生きものたち

50

京都大学助教授 久保田 信 (京都大学 瀬戸臨海実験所)

50 回記念 SF小説第2弾

■人類絶滅への序曲 不老不死のベニクラゲが、いよいよ多くの人々から抽出した妙薬で13歳から22歳に若返った『若返り』を適用する時X博士は、はつらつとしたが、22世紀初頭、人類の存続が極めて危うい状況の間、人類滅亡を阻止するための計画を実行 人類絶滅の危機をいち

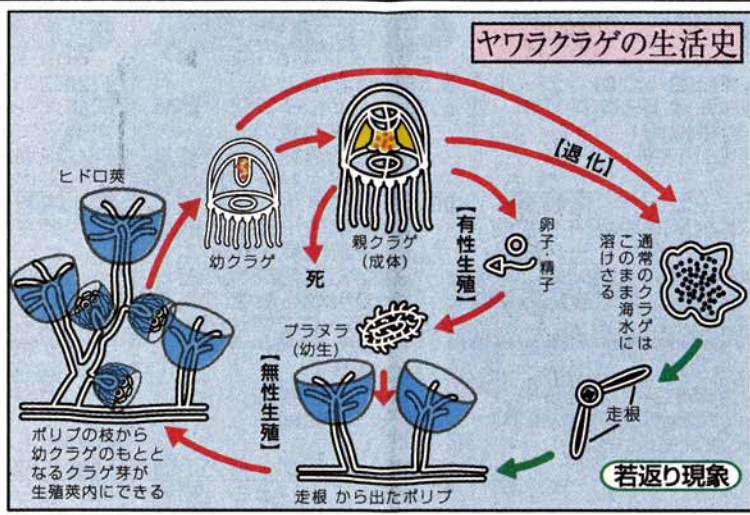
はやく察知していたX博士は、調子狂いはじめた状態に『若返り』実験を自らに突如行うこととして、身に施し続け、さらにベニクラゲ以外のヒドロクラゲ類を次々と発見し、

はやく察知していたX博士は、調子狂いはじめた状態に『若返り』実験を自らに突如行うこととして、身に施し続け、さらにベニクラゲ以外のヒドロクラゲ類を次々と発見し、



多細胞動物の中で、世界で初めて若返りが確認されたベニクラゲ

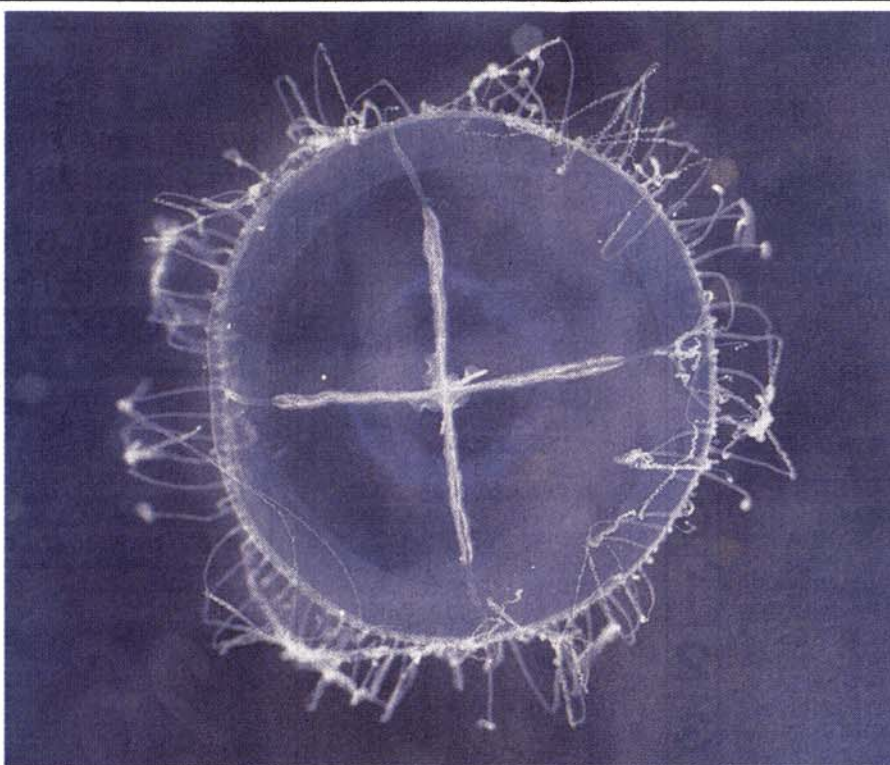
クラゲで作った若返り妙薬



血縁関係が相当離れていても『若返り』を起す共通のメカニズムに注目し、若返り過程を遺伝子レベルから生体レベルまで比較研究した結果、完全なる不老不死の妙薬の精製に成功した。

汚染された循環からもたらされたものだった。人類を絶滅へ向かわせたのも大きな要因は他にあった。それは、国家ごとに人生観や生き方の原理そのものが大きく食い違っていたことだった。生活の基本ルールのどれをとっても、世界各

「人類は何のために、何を志して、どのように生きていくのか?」「絶滅してしまっただけが楽なのではないだろうか?」「永遠に生きつづける体になるのが本当にベストなのか?」。博士は自問自答を繰り返した。



世界中の海に発見された若返りメカニズムのヤワラクラゲ

久という人工建築材料が開発された。だが、この製品からも、気付かない微量の有毒成分が揮発し続けている。飲料水の中にも極微量の有毒物質がさまざまなルートで溶け込んでおり、毒素が検出不能なまま毎日のように体内に取り込まれて続けている。この(いきち)を超えて、突

むっていることができない時が来た。人類の遺伝子そのものも複合汚染によって破壊され、閾値を超えて、突

限定的にはいるが、他の生き物たちと平和に共存できるユートピア計画への実行にむけて、第一歩を開始しよう。それでもだめなら他の星に移住すればいい。X博士が見上げた空にはきらきらと輝く数々の星がある。

くぼた しん 51歳 1975年愛媛大学理学部生物学科卒。92年から京都大学瀬戸臨海実験所助教授。無脊椎動物学、特に腔腸動物の系統分類・生態学が専門。日本動物学会や日本動物分類学会、漂着物学会、南紀生物同好会などに所属している。